

あしよろ・ハードサポート通信

足寄の皆様、こんにちは。ハードサポート株式会社の市川雷太です。

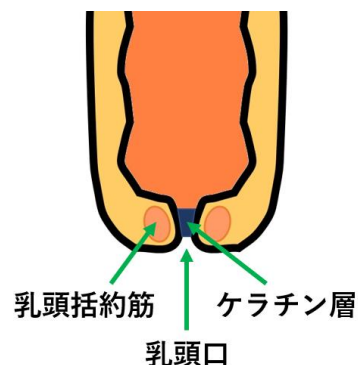
デントコーンの収穫も終わり徐々に日も短くなってきましたが、酪農家さんにとって季節に関係なく悩みのタネとなっているのは、乳房炎ではないでしょうか。乳房炎のほぼ全ては乳頭口から乳房内へ菌が侵入することが原因です。したがって、乳頭口のコンディションを良好に保つことは、乳房炎予防のためにとても重要になります。

◆ 乳頭口の構造

乳頭口には乳頭括約筋やケラチン層があり、菌などが外部から侵入しないための防御機能が備わっています。

しかし乳頭口のコンディションが悪化すると、この防御機能が作用しなくなり、乳房炎の原因菌を乳房内へ侵入しやすくさせてしまいます。乳頭口の状態が悪化する最大の理由は過搾乳です。乳頭口にリング形成や損傷がある場合は過搾乳のサインであり、搾乳機器の真空圧や、ミルカーの装着及び離脱のタイミングが不適切なことを示しています。

乳頭先端断面図



◆ 乳頭口スコアを確認



乳頭口にリングが形成されるとデコボコができてしまうので、汚れを拭き取りづらくなります。また、乳頭口のカサブタには黄色ブドウ球菌（S A）が生息しやすいとされています。

牛群における乳頭口スコアの指標として、スコア3と4の割合が20%以下であれば良好な状態であり、40%を超えると早急な対策が必要であると言われています。

◆ 乳頭口スコア悪化の原因と対策

○ ミルカーの装着が早すぎる

前搾りを行う際には乳頭に十分な刺激を与えて、乳を降ろすホルモンであるオキシトシンの分泌を促し、90～120秒後にミルカーを装着しましょう。

前搾りでの乳頭刺激が不足していたり、ミルカー装着までのラグタイムが短すぎる場合は、ミルカー装着直後に搾乳前過搾乳になってしまい、乳頭口へ損傷を与えます。

○ ミルカーの離脱が遅すぎる

オキシトシンが多く分泌している5分以内に搾乳を終わらせることは、乳頭口への負担が小さく理想的です。

ミルククロー内の牛乳の流量をよく観察し、適切なタイミングでミルカー離脱を行いましょう。一般的には、ブリードホールからの音が無くなり、ミルククローの内壁を牛乳が一筋に伝うようになったらミルカーの離脱タイミングです。

搾乳後半で乳量が低下してもミルカーが離脱されないと過搾乳の状態になり、乳頭口が傷む原因になります。



↑そろそろミルカー離脱のタイミングです

◆ 牛からのサインを見逃さない

最近では、ミルカー装着のタイミングは以前より遅めでも問題無いとされており、十分に乳が降りてから短時間でキレイよく搾ることが過搾乳防止には大切です。

また残乳が乳房炎の直接の原因ではないとも言われており、ミルカー自動離脱のタイミングは早めが推奨されてきています。(2回搾乳で離脱時の流量が500～1,000ml/分)

乳頭へ過度の真空圧がかかると牛は足踏みをしたり、ミルカーを蹴り落とそうとします。これらの行動や乳頭口スコアなど、牛からのサインを見逃さないことが過搾乳に気付く最初の一步であり、乳房炎の予防には重要なことです。

これから冬場を迎えますが、寒い時期は乳頭が乾燥しやすくなり乳頭口も荒れやすくなります。保湿力が高いポストディッピング剤の使用もおすすめです。

乳質改善についてのご相談や、必要に応じて搾乳立会も行っております。ご希望の際は遠慮なくお問い合わせください。
(市川雷太)